

プリオン病の治療薬開発に向けた新しい実験モデル動物の開発

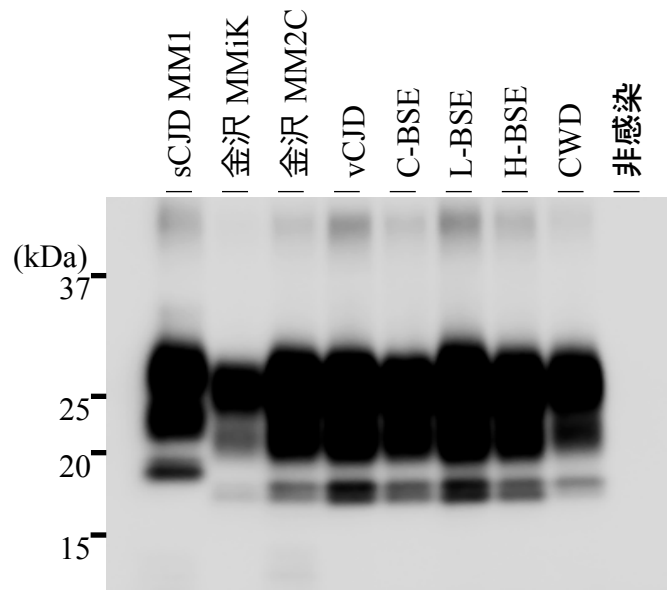
研究開発分担者： 東北大学医学系研究科・病態神経学分野 北本哲之

研究開発協力者： 東北大学医学系研究科・病態神経学分野 毛利資郎

1. Bank vole 遺伝子導入ノックインマウス (KiBv)へのプリオン伝達成績

伝達したプリオン	CJD-MM1、CJD-MMiK、CJD-MM2C、F1 GSS由来マウス株) vCJD、C-BSE、L-BSE、H-BSE、CWD
伝達しないプリオン	CJD-VV2

2. 伝達後のKiBvマウス脳のプリオンのウエスタンブロッティング



解説

1. ヒト及び動物プリオンに対して広い感受性を有するBank vole (Bv)のプリオン蛋白質遺伝子導入マウス(ノックインマウス、KiBv)を作製。
2. 遺伝子導入ノックインマウス (KiBv)は多くのプリオンが伝達可能であった。特にCJD-MM2Cはこのマウスで初めて伝達可能となった。伝達しなかったCJD-VV2プリオンは他のノックインマウスに伝達可能である。
3. ヒト由来プリオンはKiBvマウスに伝達後、ウエスタンブロッティングで、それぞれのプリオン種の性状を維持したが、ウシ由来プリオンではそれぞれのプリオン種の性状は必ずしも維持されず、いずれのプリオンも類似したパターンを示した。